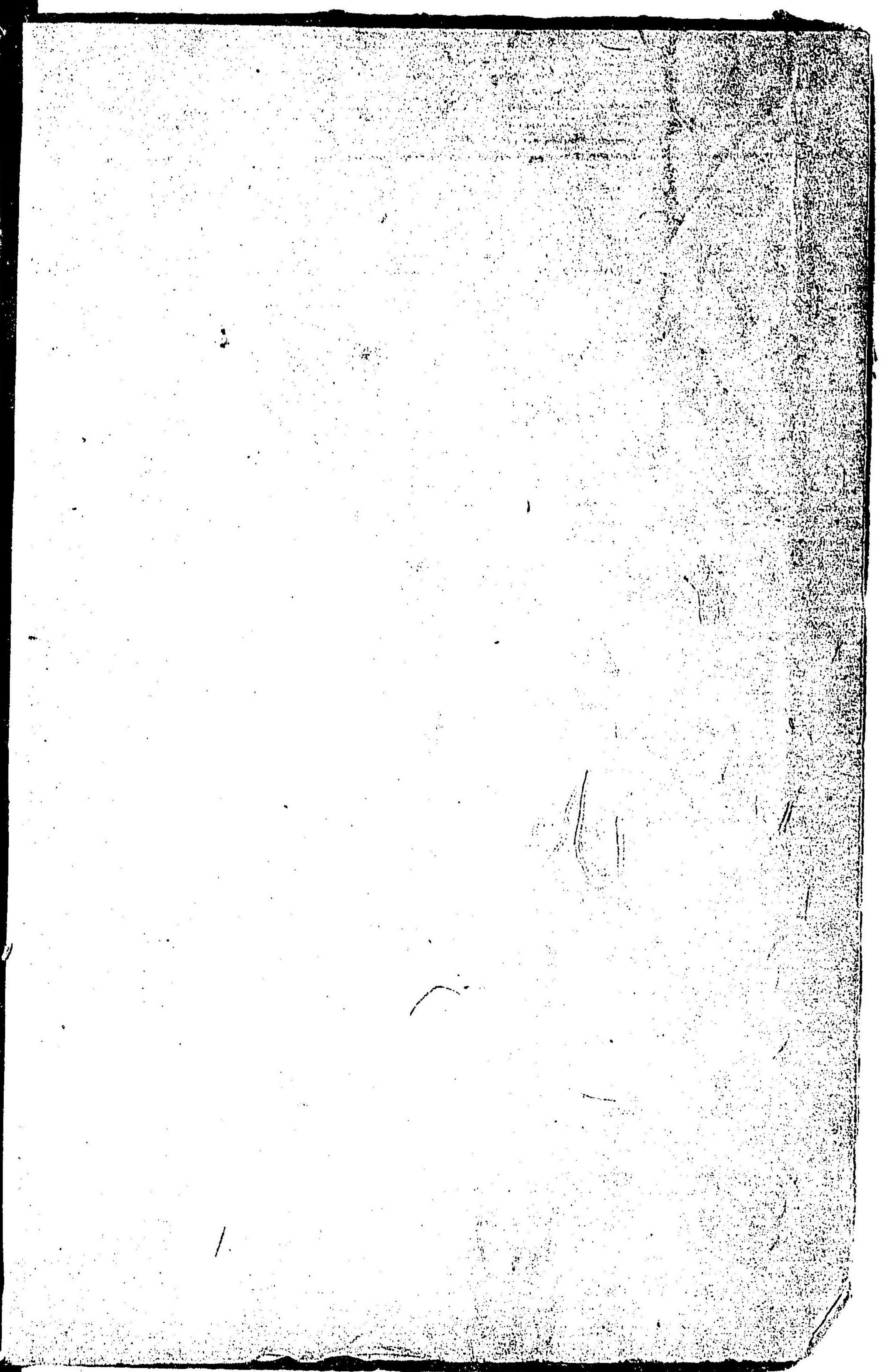


16  
143

一  
那  
九  
2  
18

16  
143

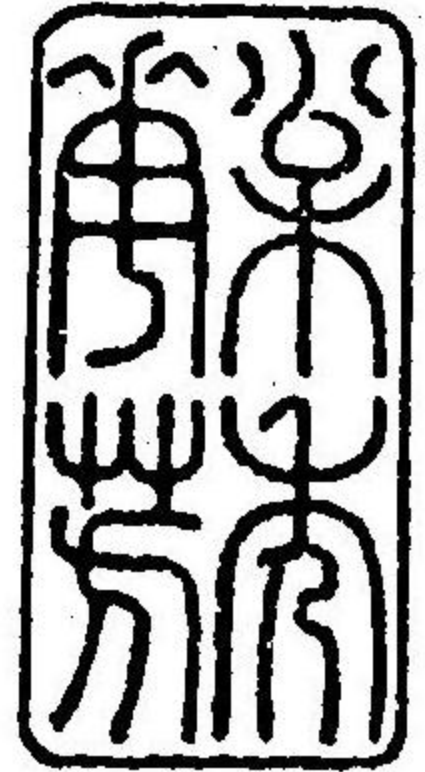
辛卯年



16  
143



Vi2255/24.



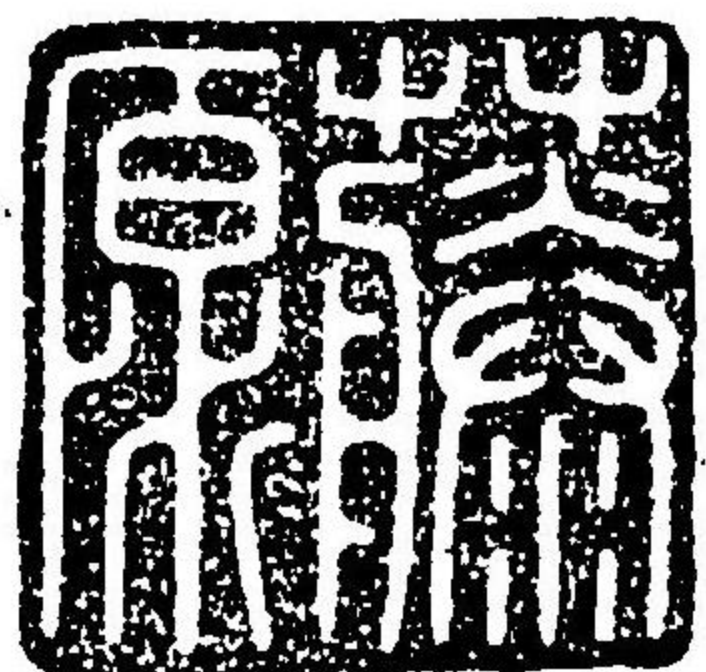
志

化



小  
乃

一  
五  
海  
起



トキハカニカニカニ

トキハカニカニカニ

トキハカニカニカニ

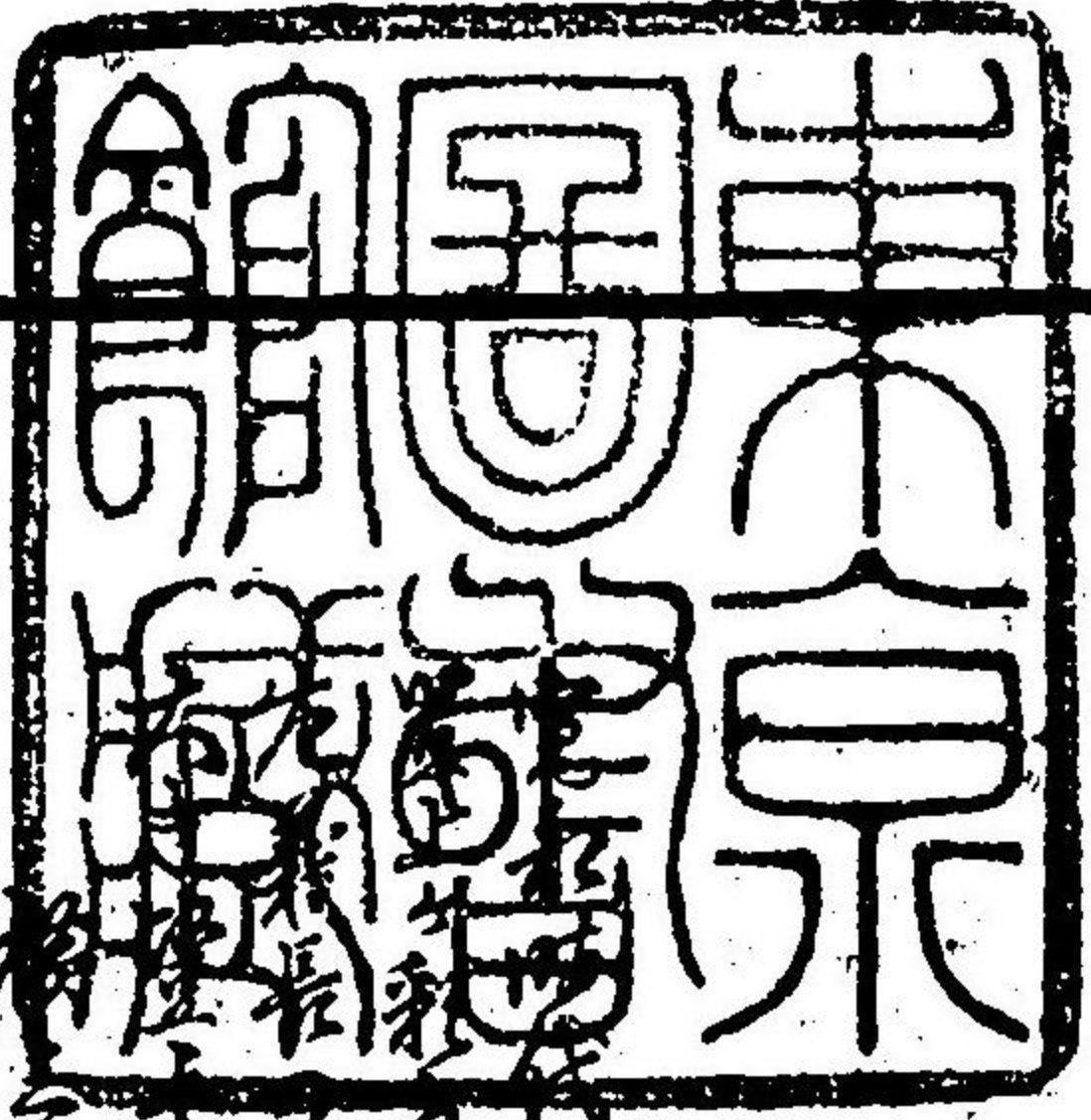
トキハ

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 10 lines, starting from the top left and moving downwards. The script is dense and characteristic of early modern handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Chinese calligraphy or a specific dialect, arranged in several vertical columns.

志玩  
器者  
壽美

奕淨三昧道人香遠



表面

原寸五分五厘

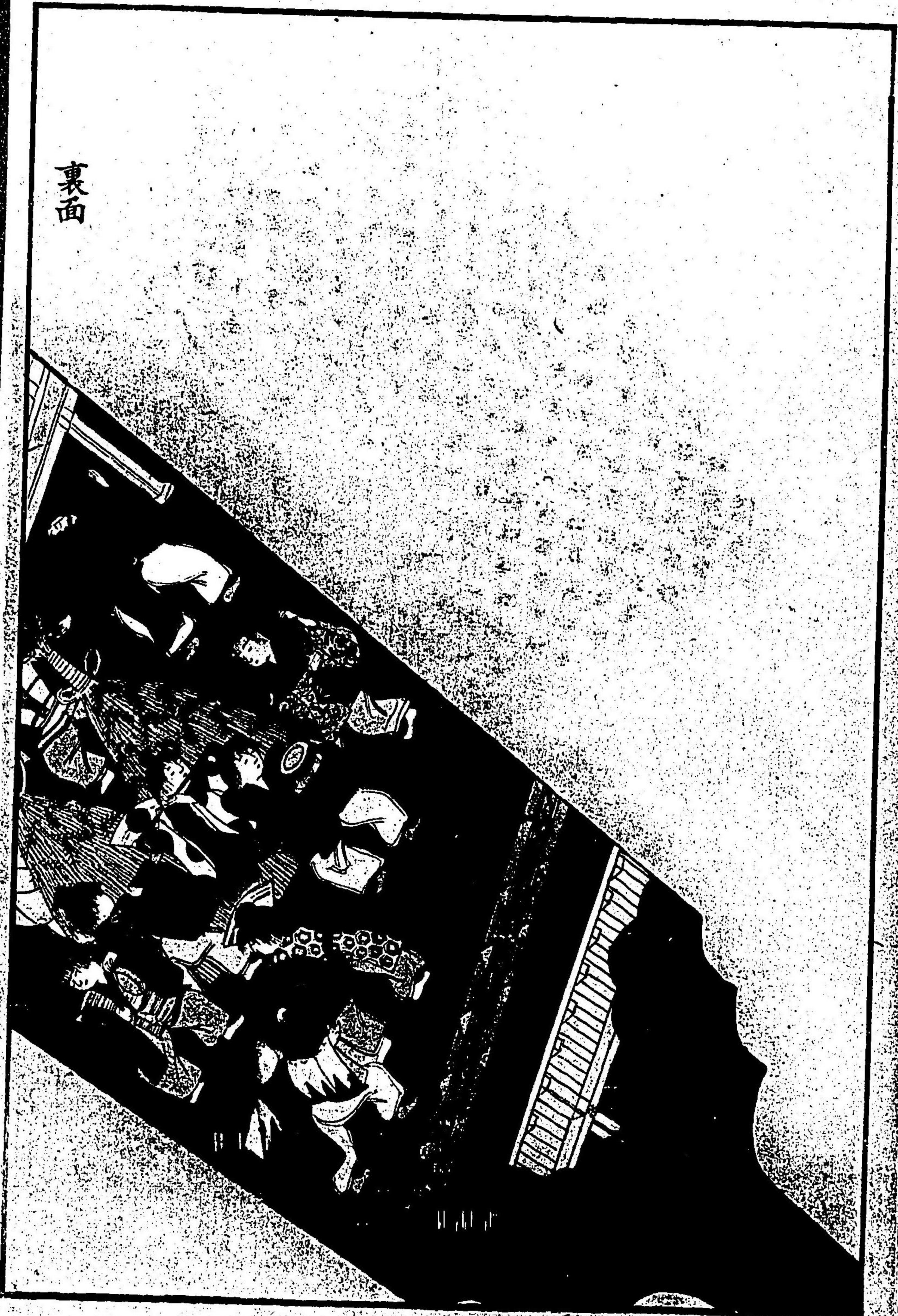
相子板

天五寸三分

寸八分





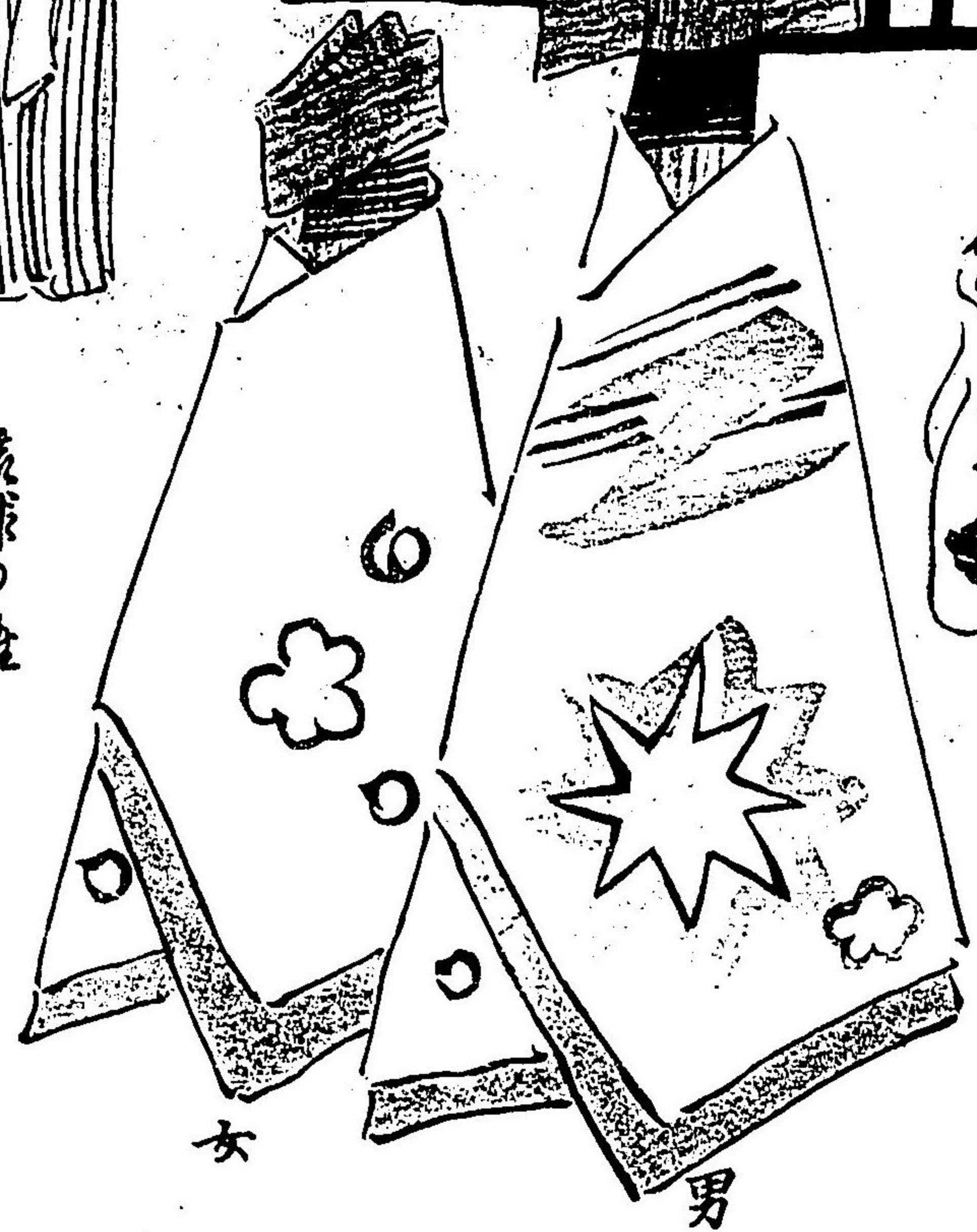


加賀の國の雛  
蛸り物案

祇素  
八丈島の雛



稚球の雛



京都柏子の子持  
蛸り物案

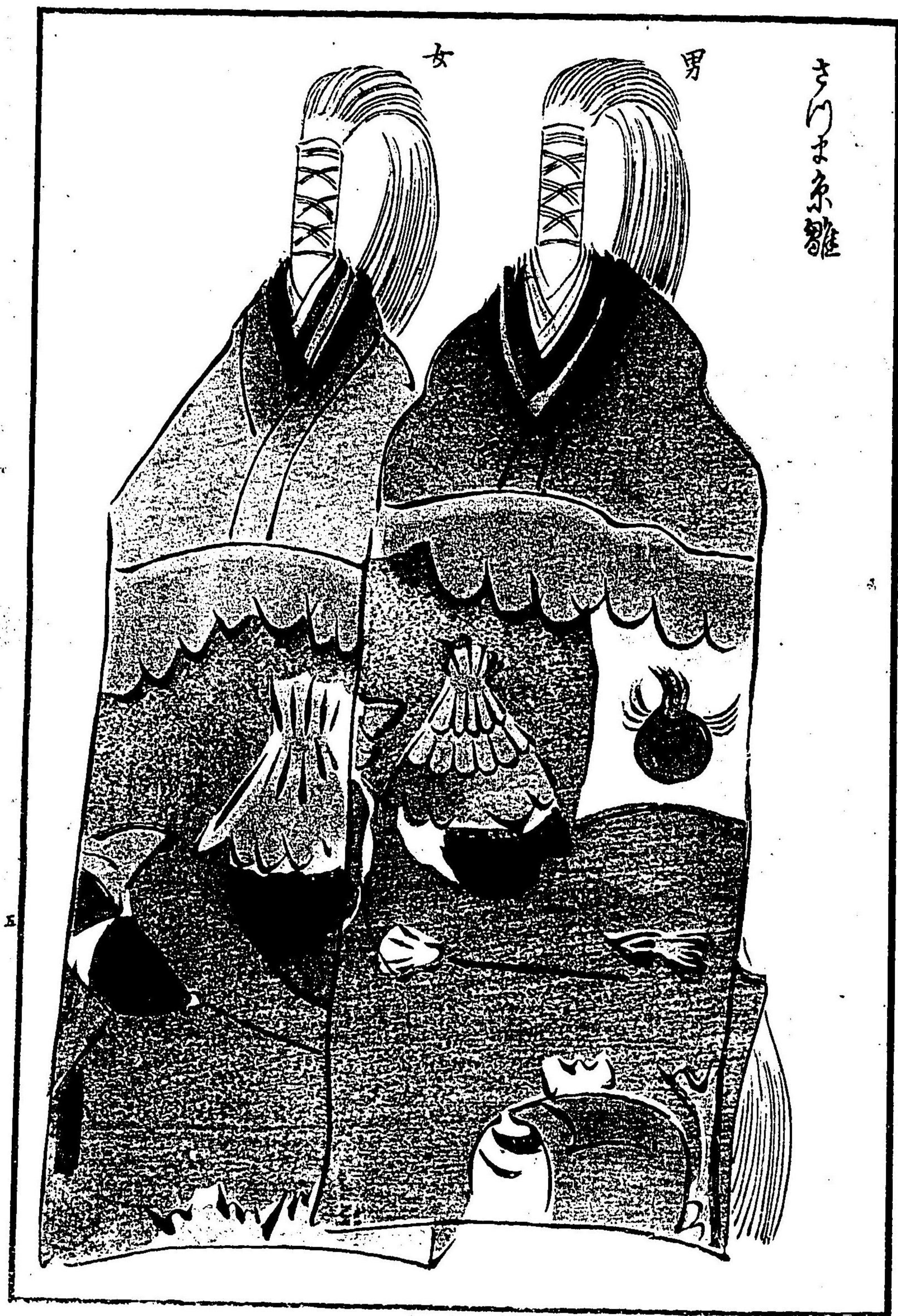


らんすふりうた



明和安永の頃大流行定政のころ盛く停止  
竹出まじりしは礼楽買なすぬてよきぬ



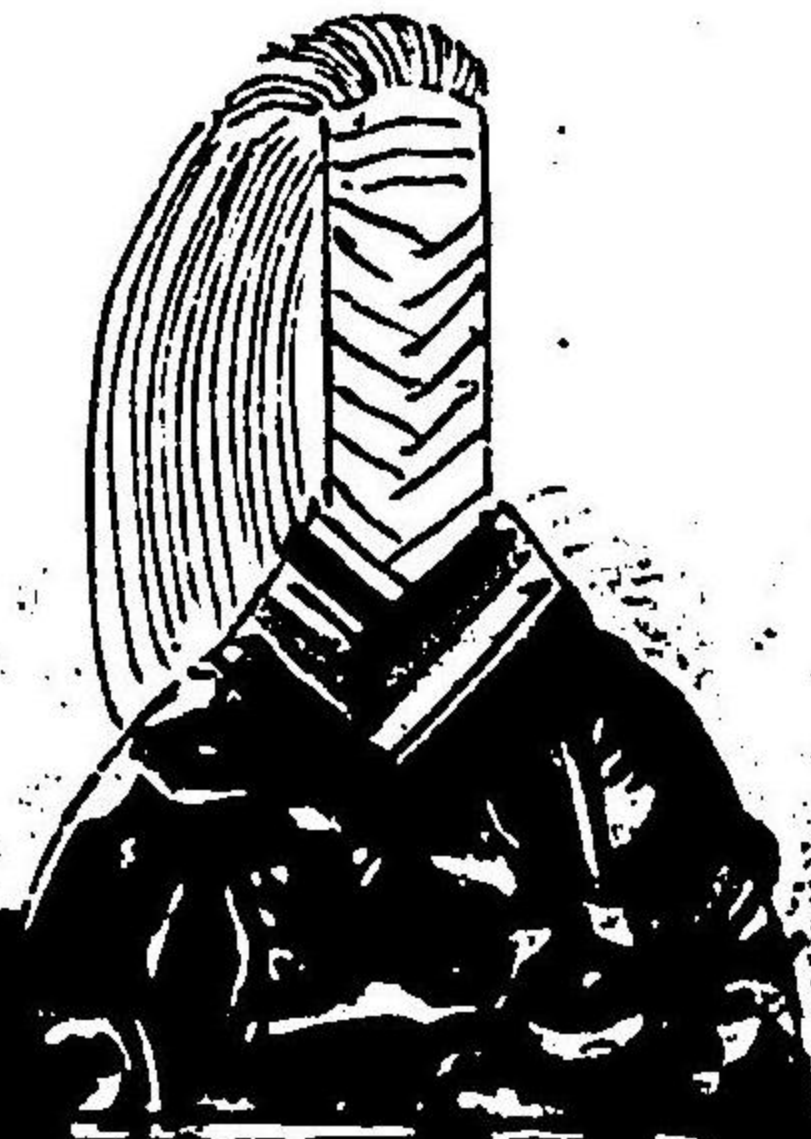
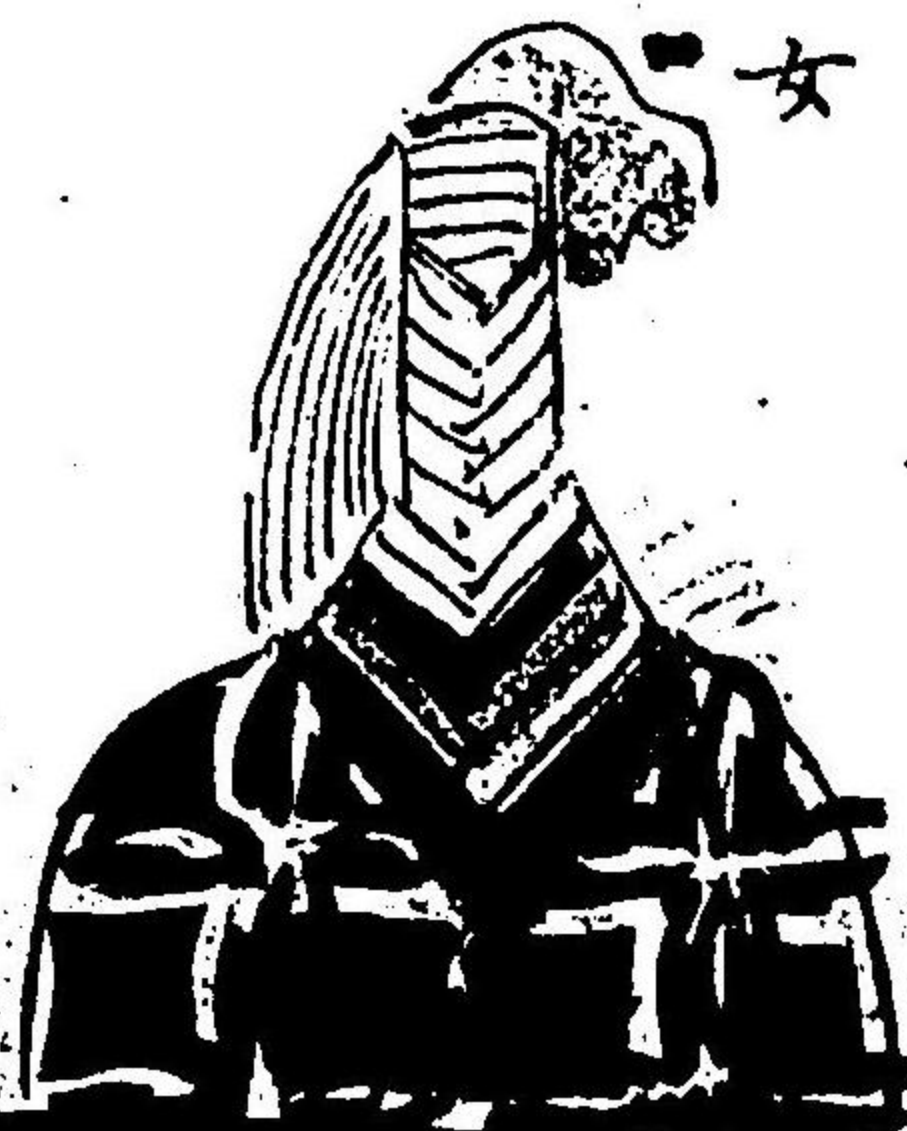




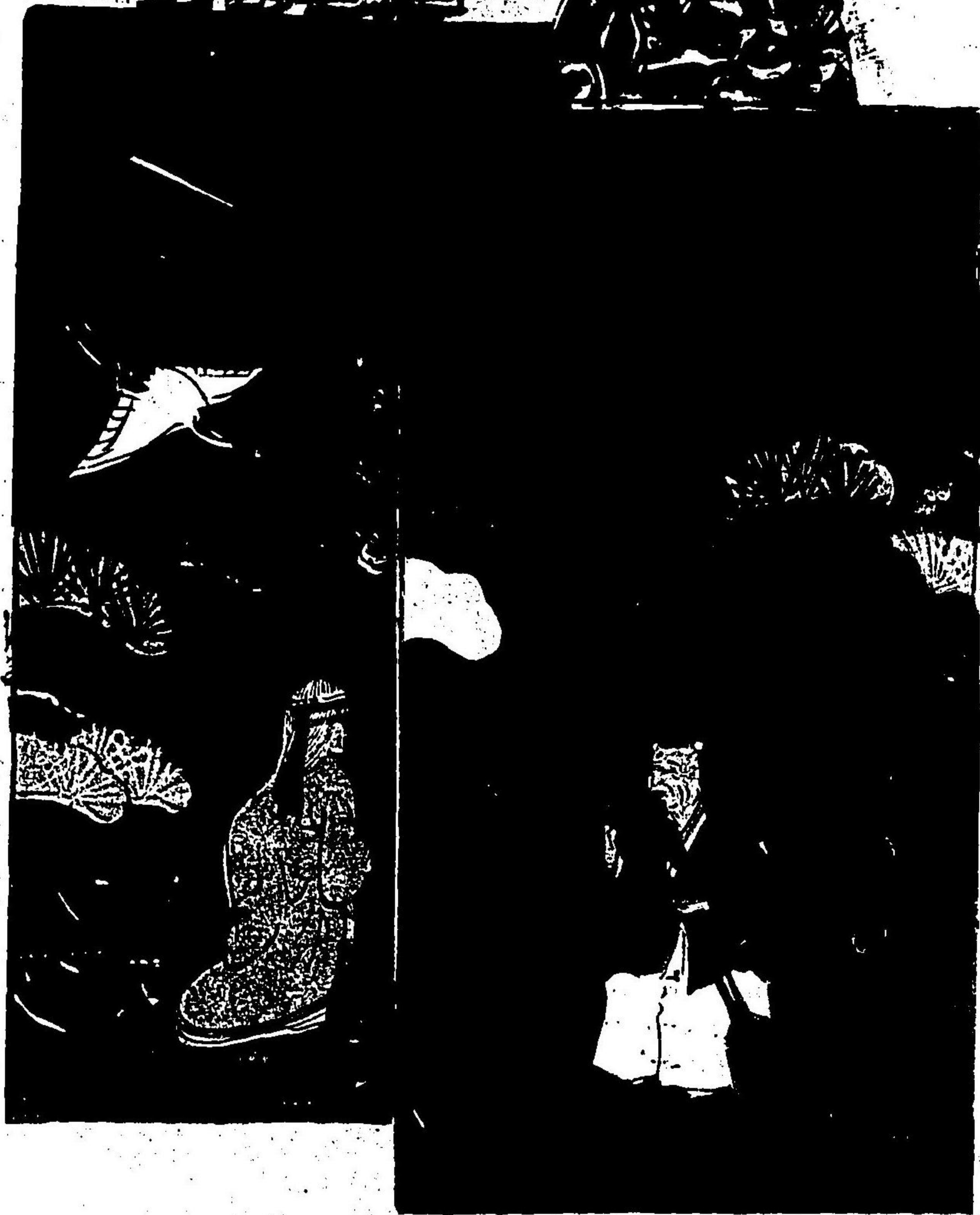
現々まの雅

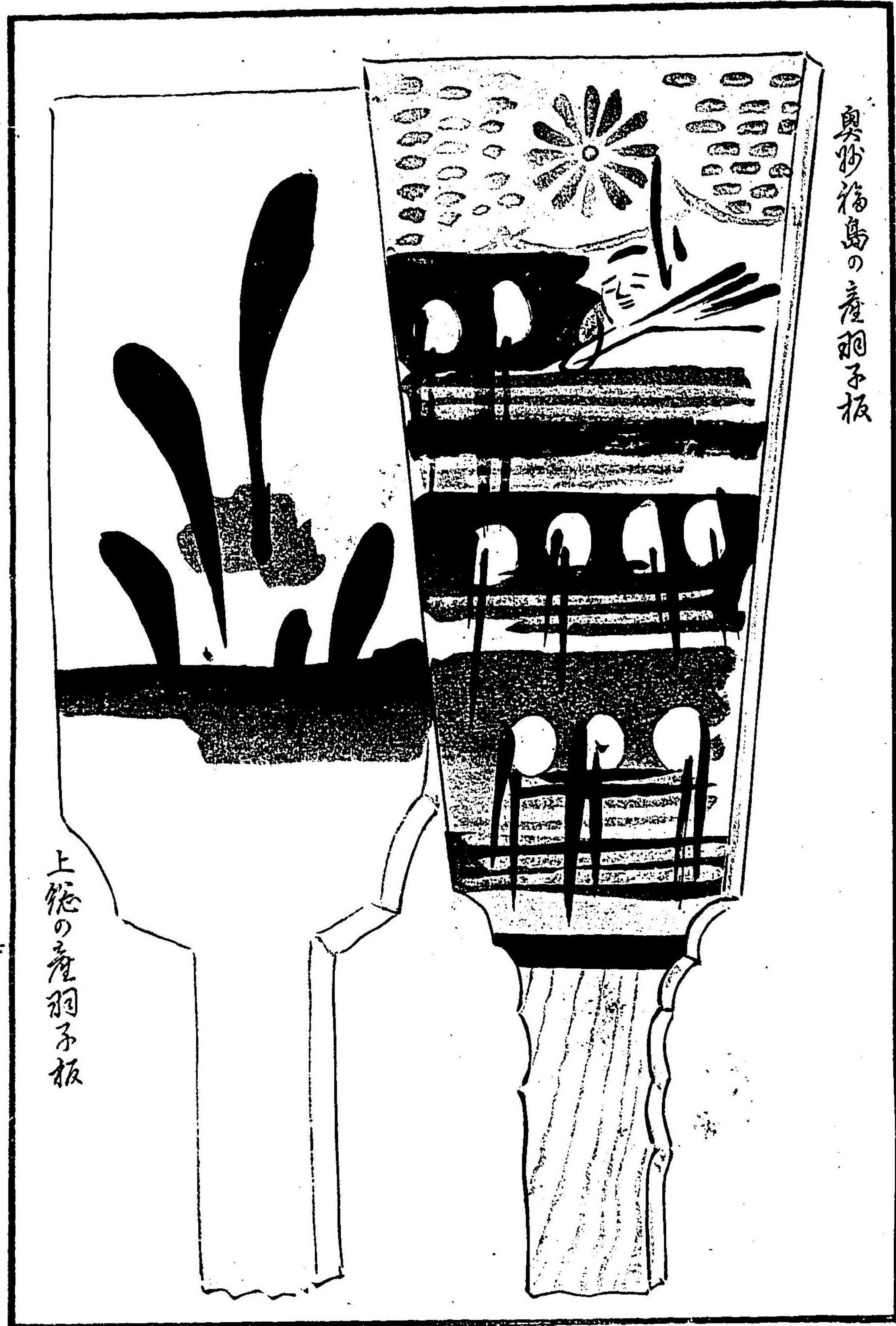


六



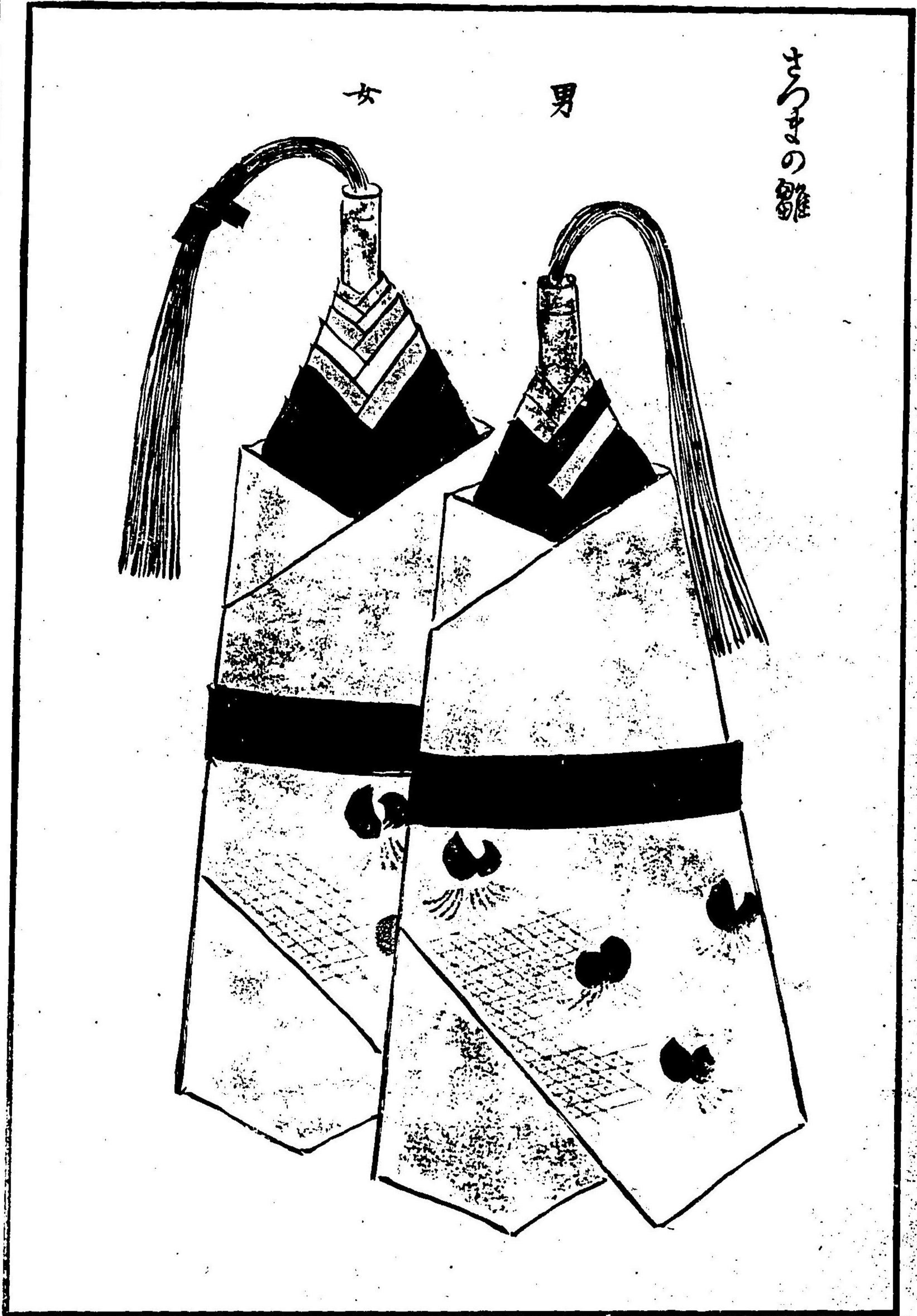
古物まの雅





奥妙稲島の産羽子板

上総の産羽子板



上総の産



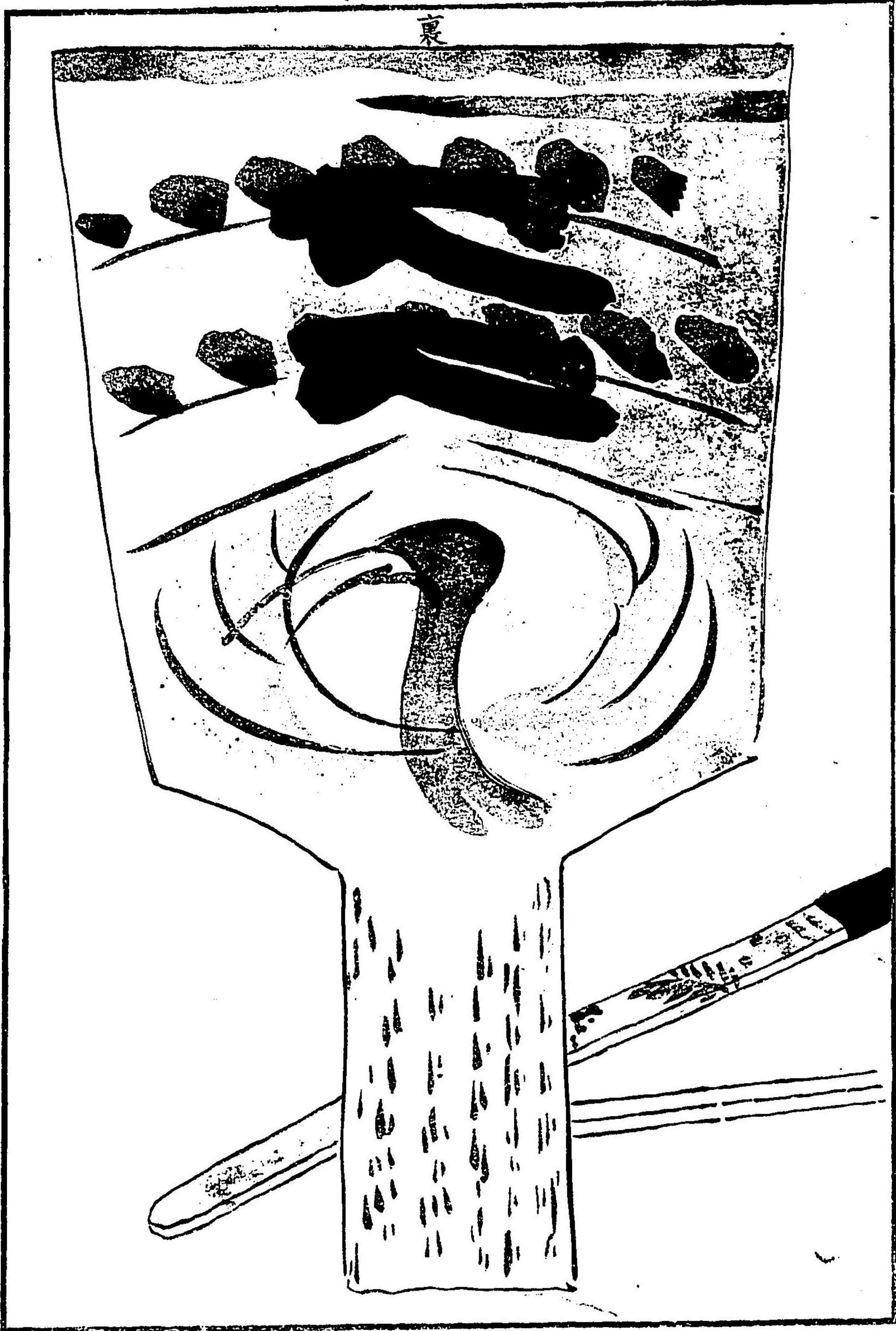
若衆衣装

若衆人形は、お抱あつて、お婦人の雛と、器作異に、て小兒の玩弄も、あつて、お抱あつて、お婦人の愛學、や、おのな、と、人情、おひ、ひ、と、運魂、紙、折、日、見、と、



下和貞等の比能衣装  
おや、お人形、又、雛人形、おひ、ひ、と、

裏



表



奥州石の巻羽子板

野州佐久山の巻羽子

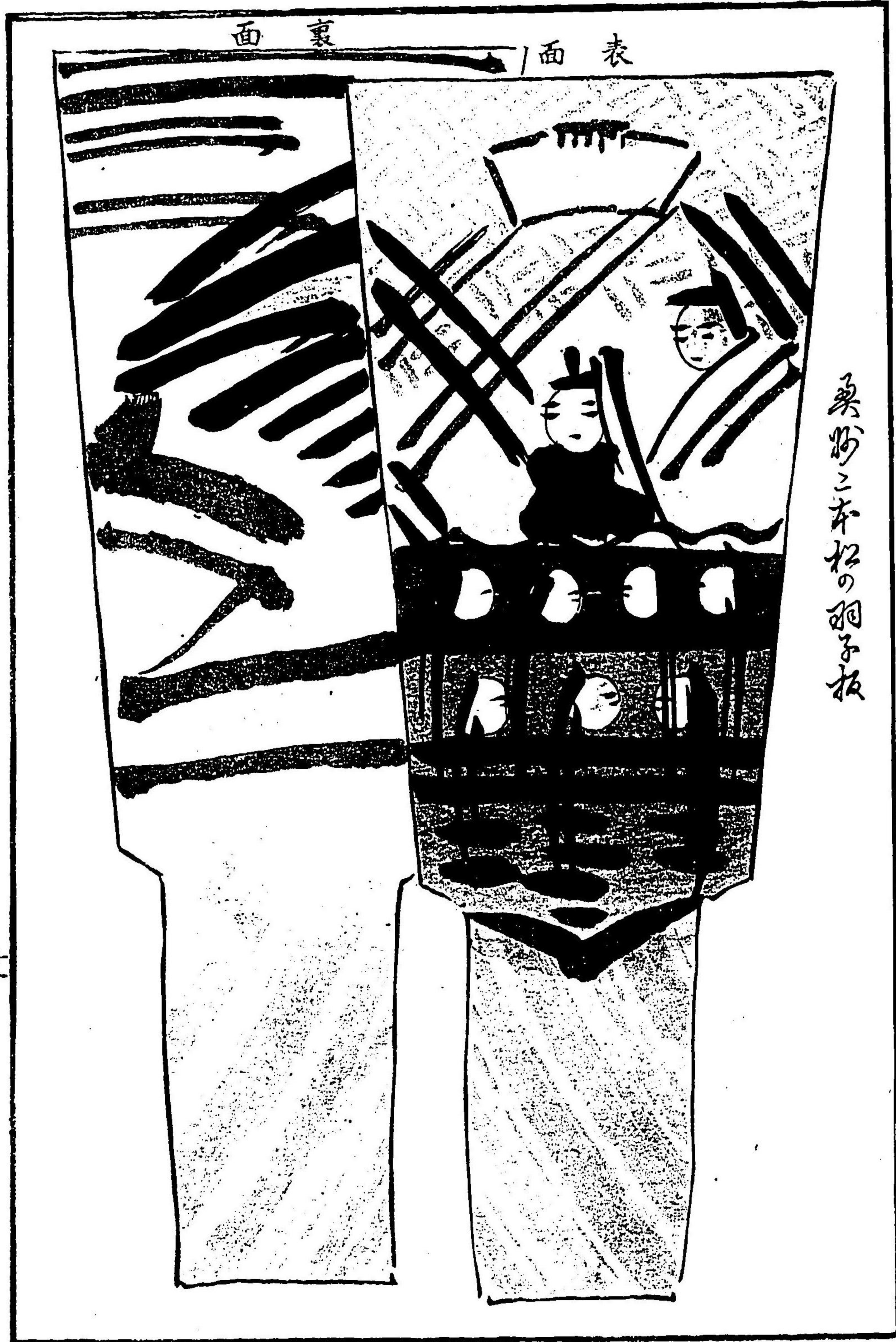
古書見焼のゆゑ



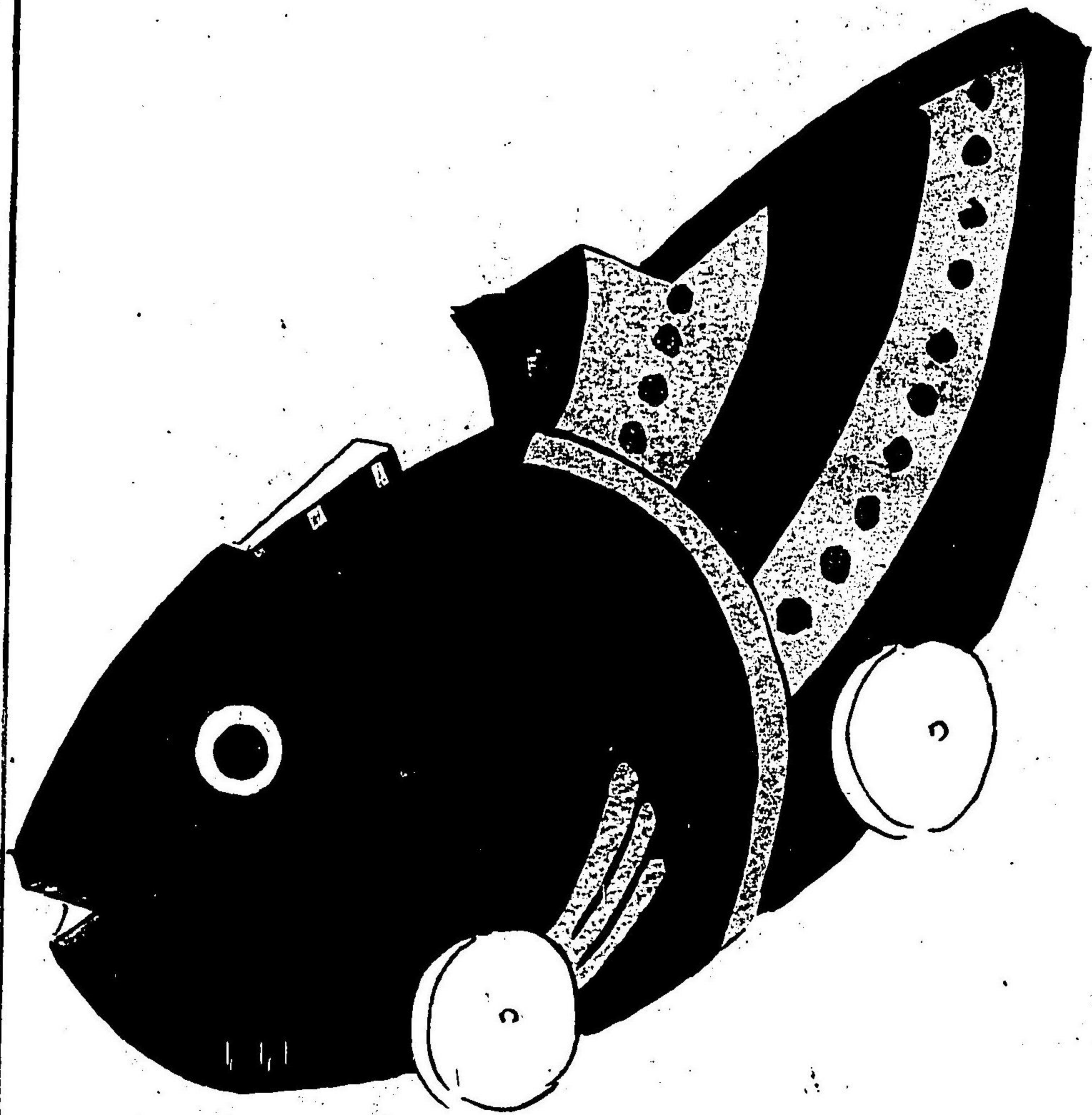
若一屋張三河地方にて九月九日に  
かきり〜といふ髪子離又後の離とせり



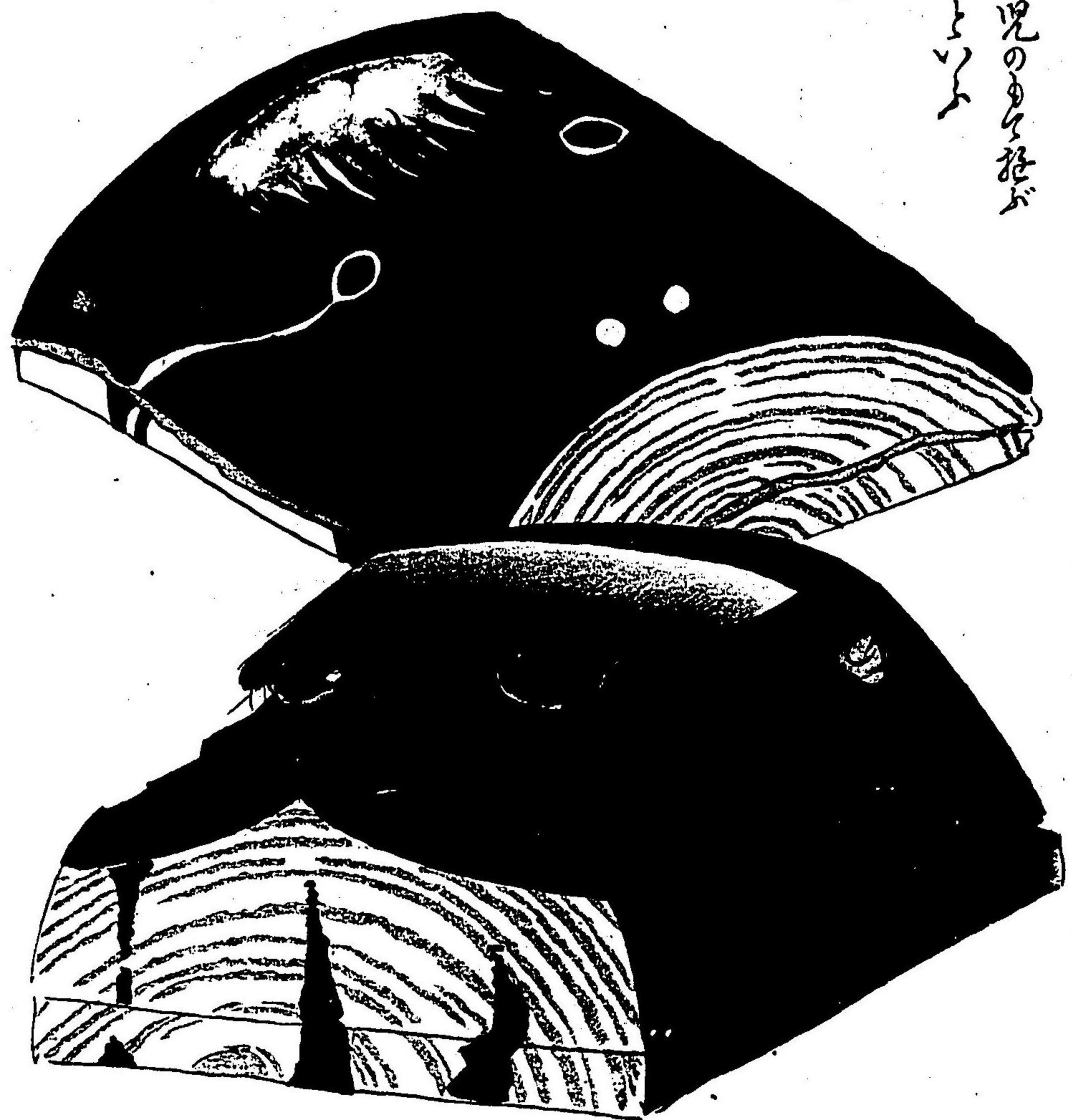




大隅國の産 鯛章  
 國小宮内八幡祭禮  
 の節とせとて瑞南く



福前増多の町まゝ小児のもの程  
獅子の顔増多のあゝいゝ  
大き圓の如し



桑抄松島  
手遊び  
移器別兒



出羽左地の産  
手遊びの獅子  
大き圓の如し

大坂の地味な祭りの一つ  
 出立の祭りの守

流石の大坂府管仲廟ありて  
 例年正月七日夜國の初祭  
 祭の節は五神の祭  
 大坂の地味な祭りの守  
 大坂の地味な祭りの守  
 大坂の地味な祭りの守



大坂の地味な祭りの  
 社を正月十日  
 祭りの十日祭りの  
 祭りの十日祭りの



大坂の地味な祭りの  
 種類は種あり  
 祭りの十日祭りの

大坂の地味な祭りの  
 社を正月十日  
 祭りの十日祭りの

京都の翁もま  
今いはいり



女達摩四様

九州地方はむねな又京都  
日くおきん女師より本家  
よて起より小法師と同  
意味あり

京都の女遊  
土器様



裏

表

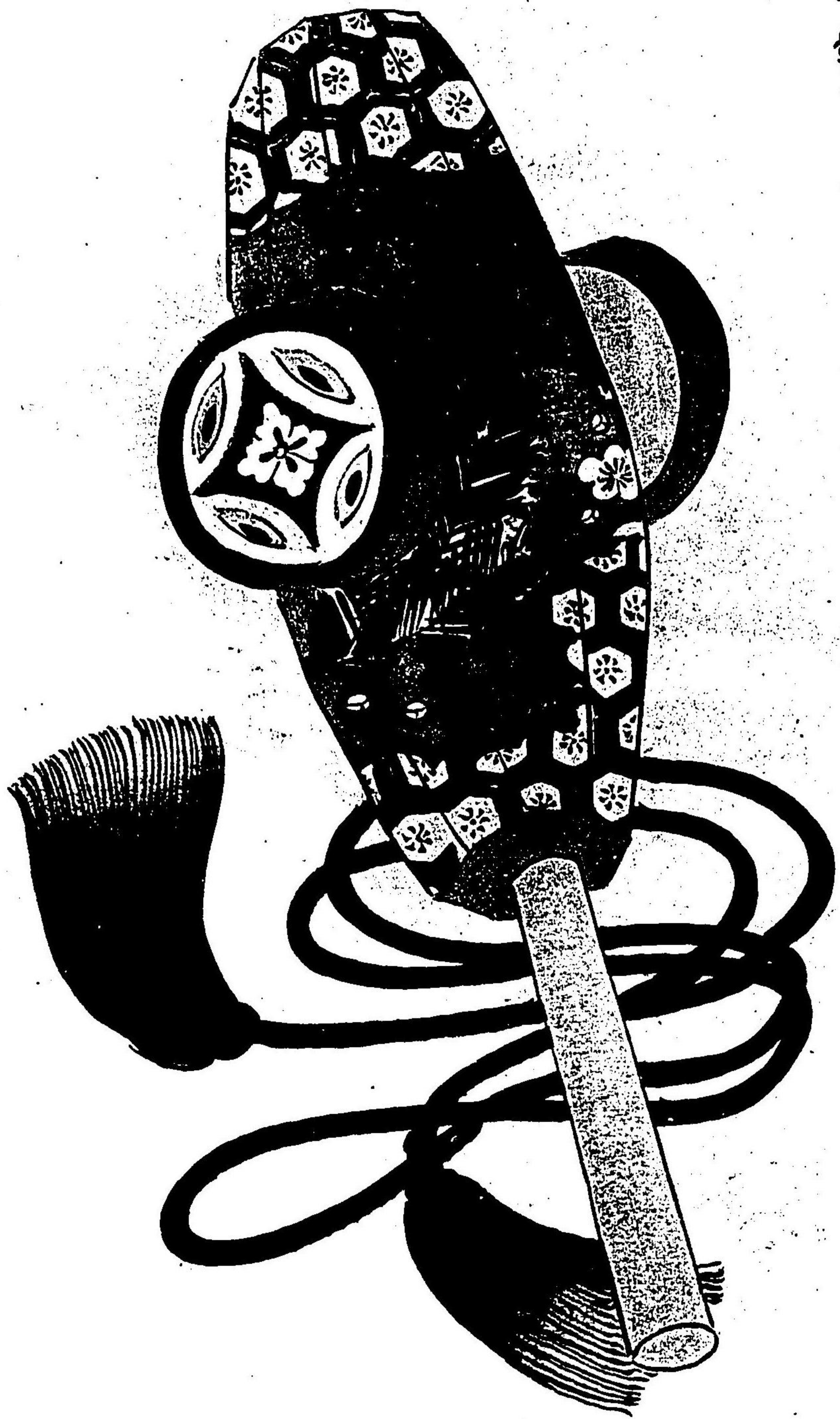


古製  
信濃羽子板

江戸浅草の春  
木彫若色の雛



古製ブリク



京都産  
おりの物装  
俗に  
海みかけ  
る飛ぶ





おまこ這子あまがしん  
犬張子

十



松前の紙製  
かんきー人形

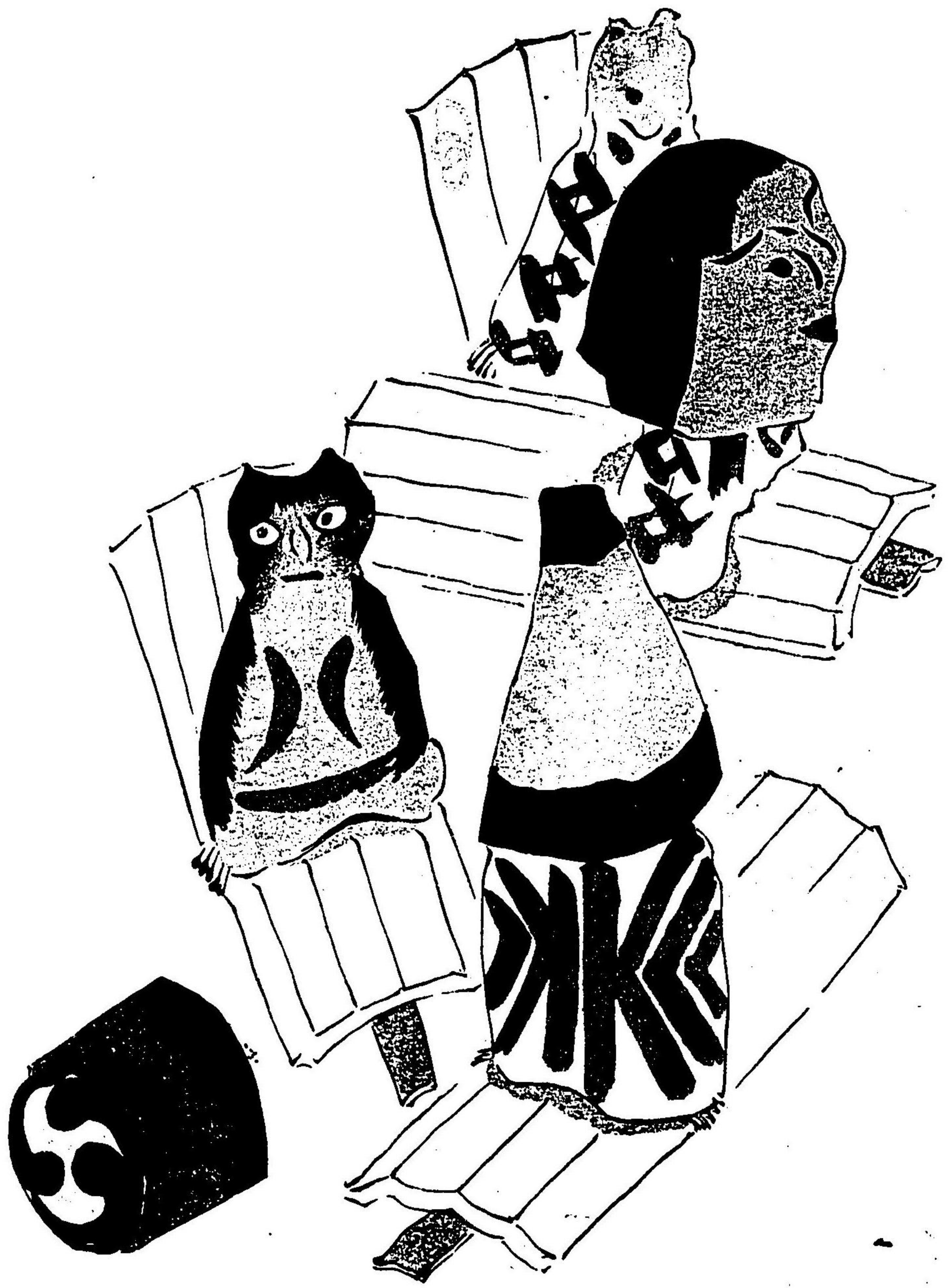
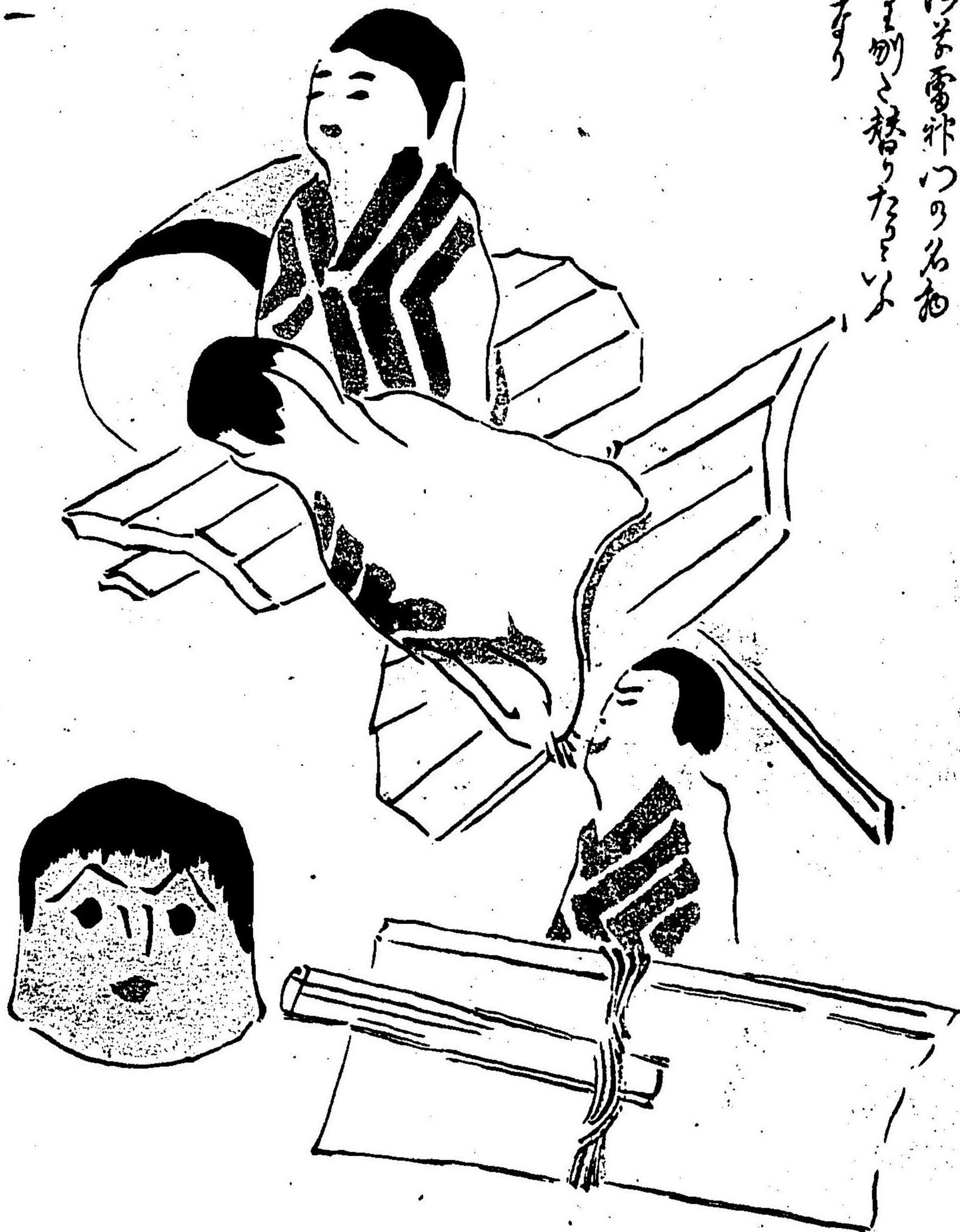
奥州一の関の  
手遊

女拵女白とんぼ

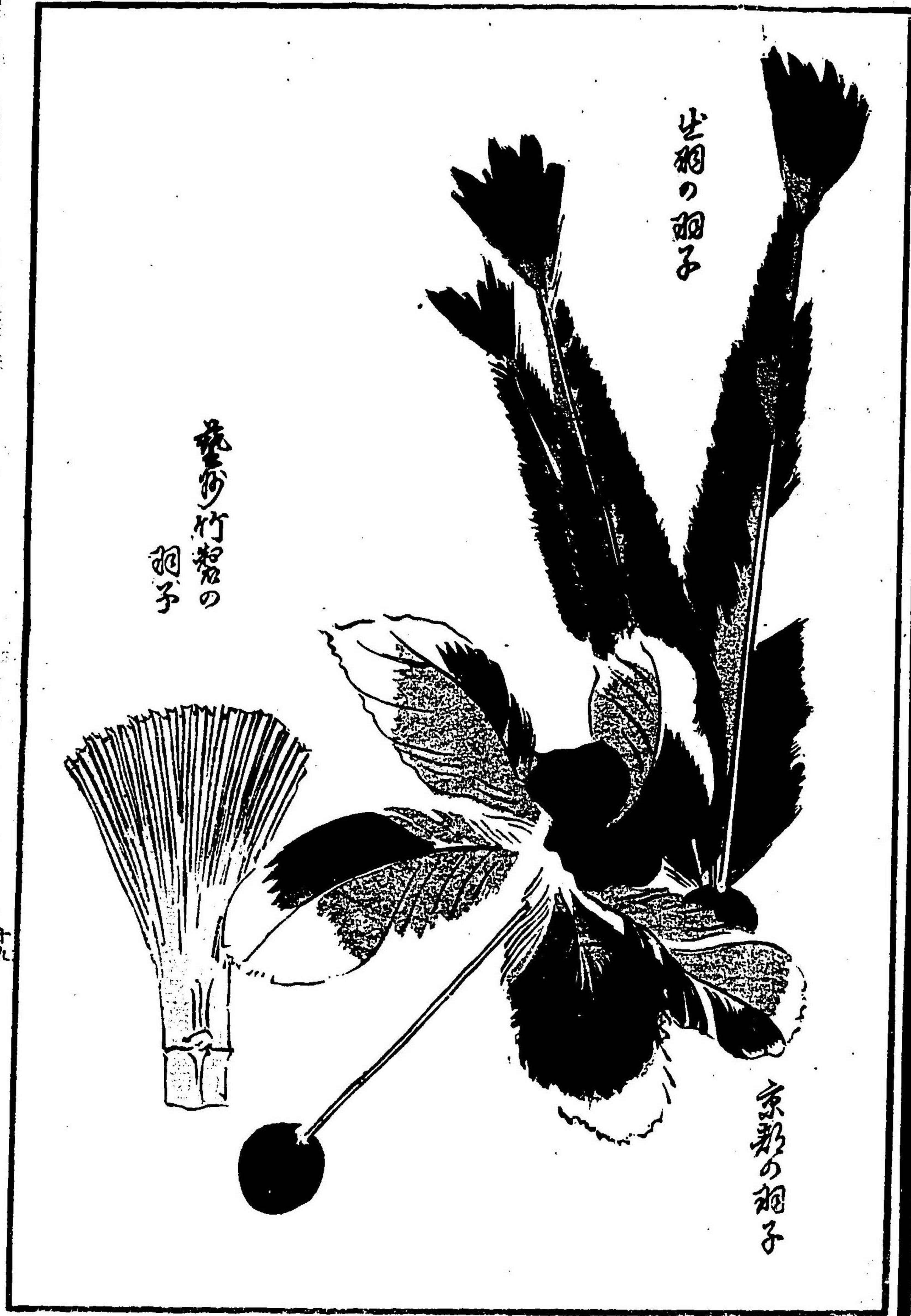
出羽坂田  
鬻ぐ人形笛

出羽の國  
手遊

江戸沙茶番神町の名お  
とんとまめつと替りたるま  
を遊する







尾州竹智の  
羽子

しるしの羽子

京都の羽子



尾州熱田の羽子板

裏 表

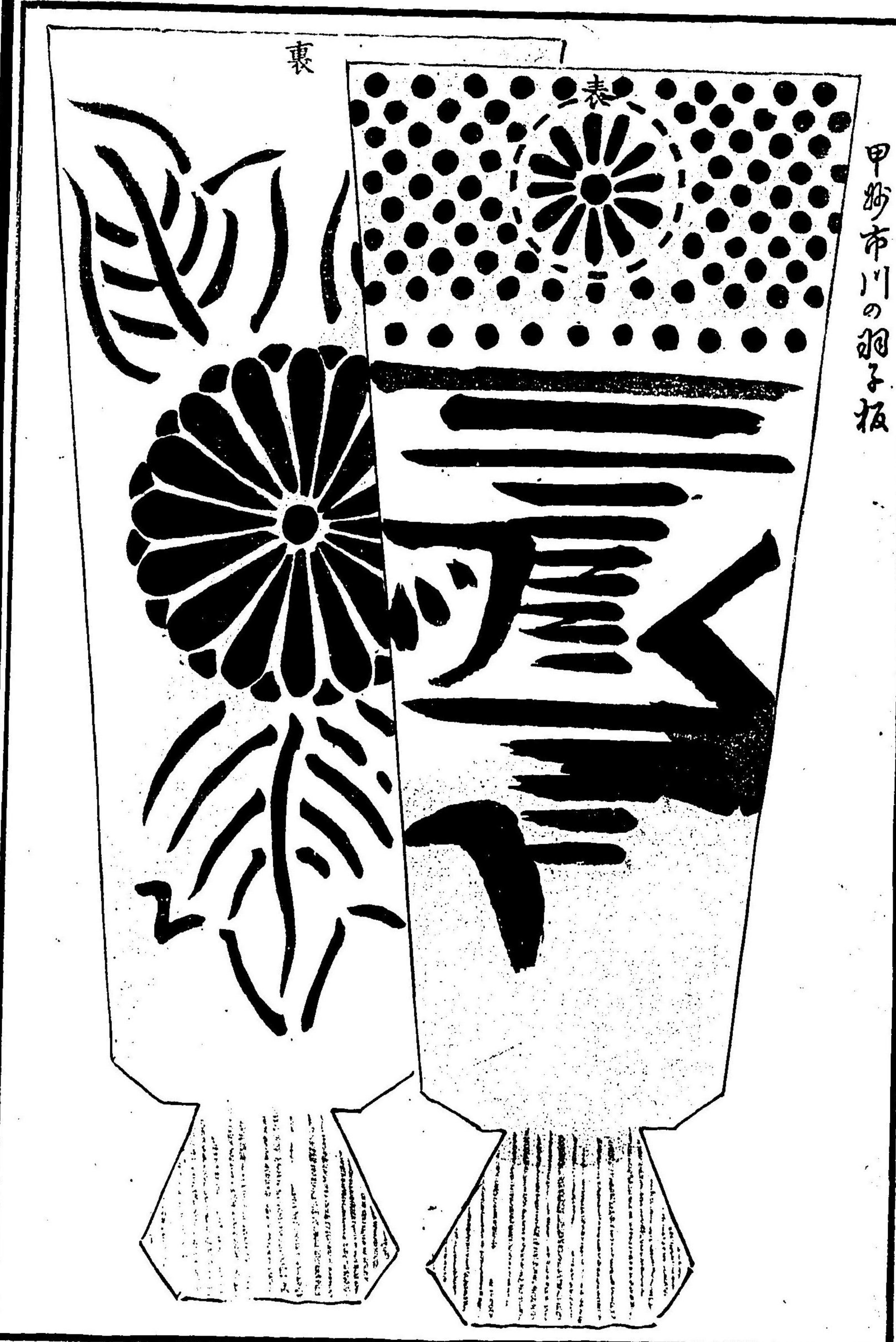
攝津住  
人形並  
土製十二支



江戸産土製  
一文人形十二支



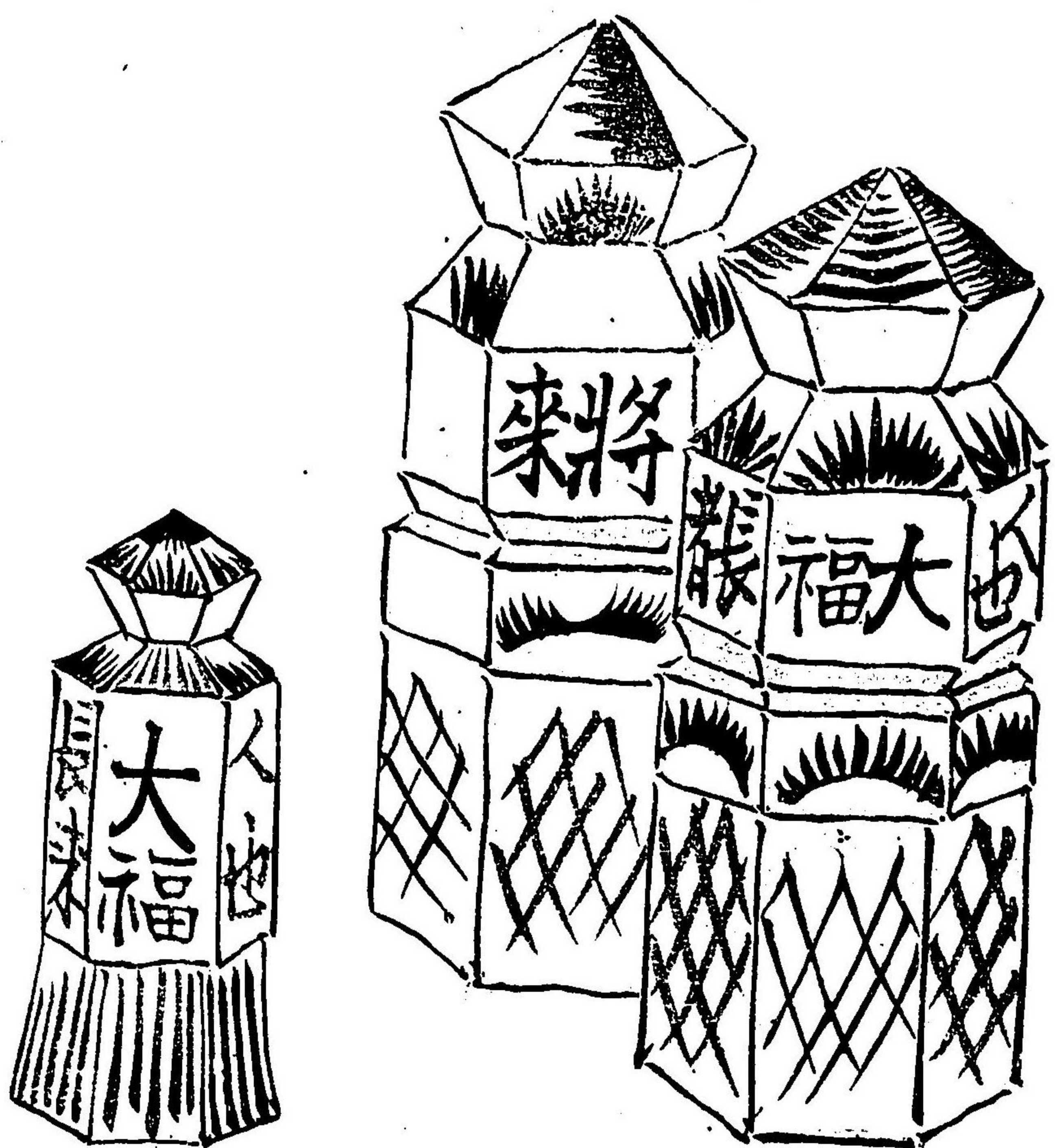
甲抄市川の羽子板



羽子板  
下野那須郡より脱ふもはたき



信州上田  
菴民長末



奥妙仙臺の  
五もん人形

奥州一の園は  
瑞々コケシバウコ

奥州石の巻の  
人形

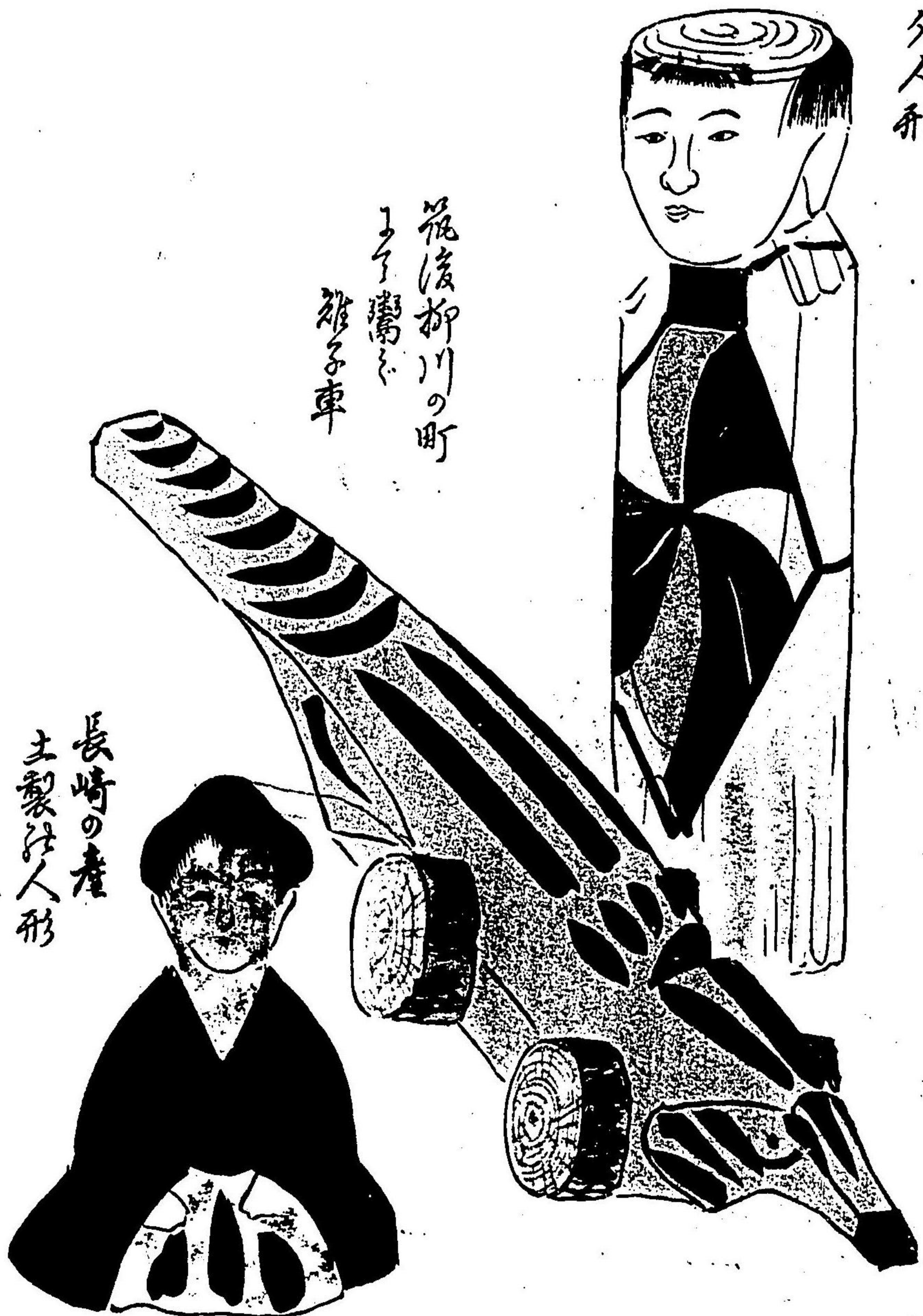
奥妙仙臺の  
手遊び

奥州にて鑿鈴とふ  
正月の子遊あり



征後國  
ベシタ人形

征後柳川の町  
子守囃子  
雛子車



長崎の産  
土製人形

南都奈良彫  
字妙厨一姥

春日社迫傍  
子守囃子

南都法興院  
子守囃子



土製  
子守囃子

犯後の國木の葉紙を  
賣る土物の精



古製飛後柳川  
まじり車



日向の産鴨車高岡法華獄寺の祭の時、漸々  
此鴨車は古へ百濟人歸化して百餘年より之を  
造り初めしより其形を今に傳へて、稚童の  
怒と凡庸人命長くとて、徳好候の宮中にも  
年々奉りてぞ

山城國男山  
八幡宮にて  
奉りて土物の  
精



三十一

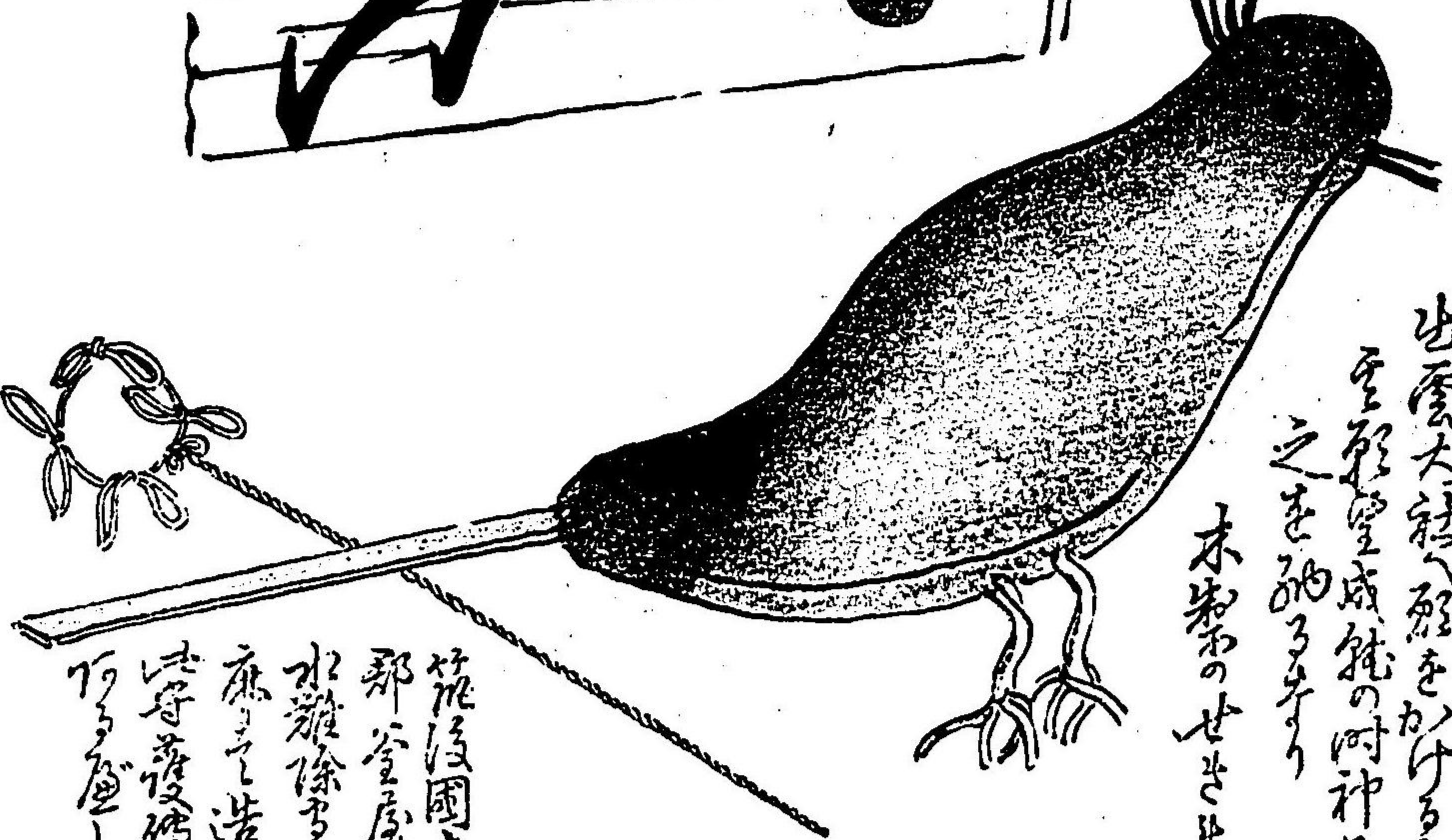
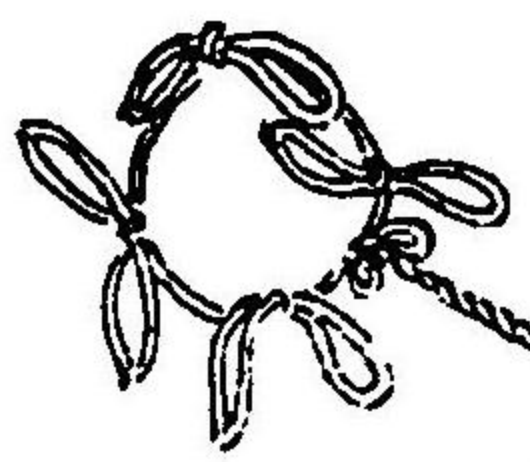
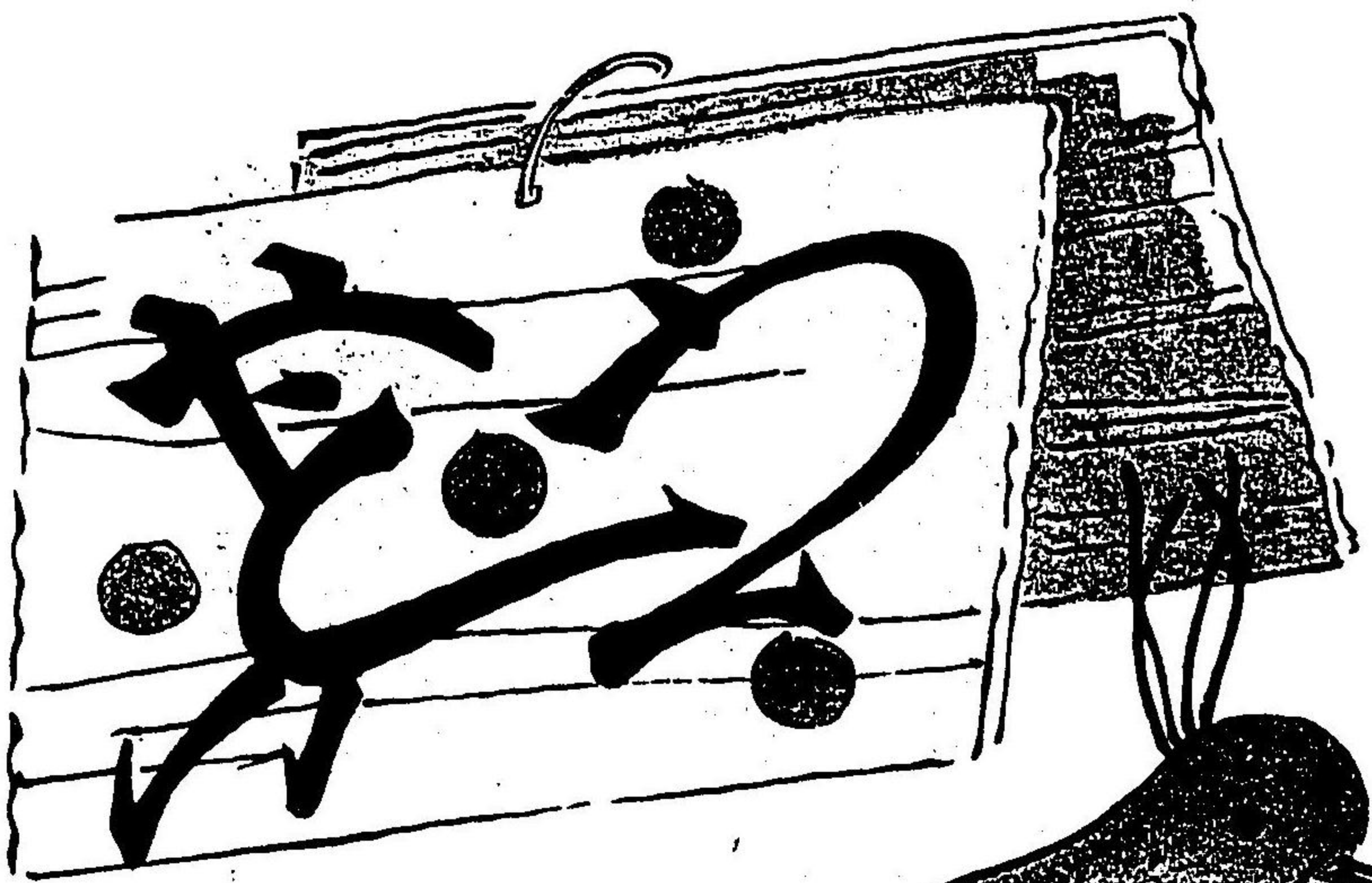
莫沙之春駒  
三種



伏見焼の布袋



勢好し  
山の神と  
ゆる

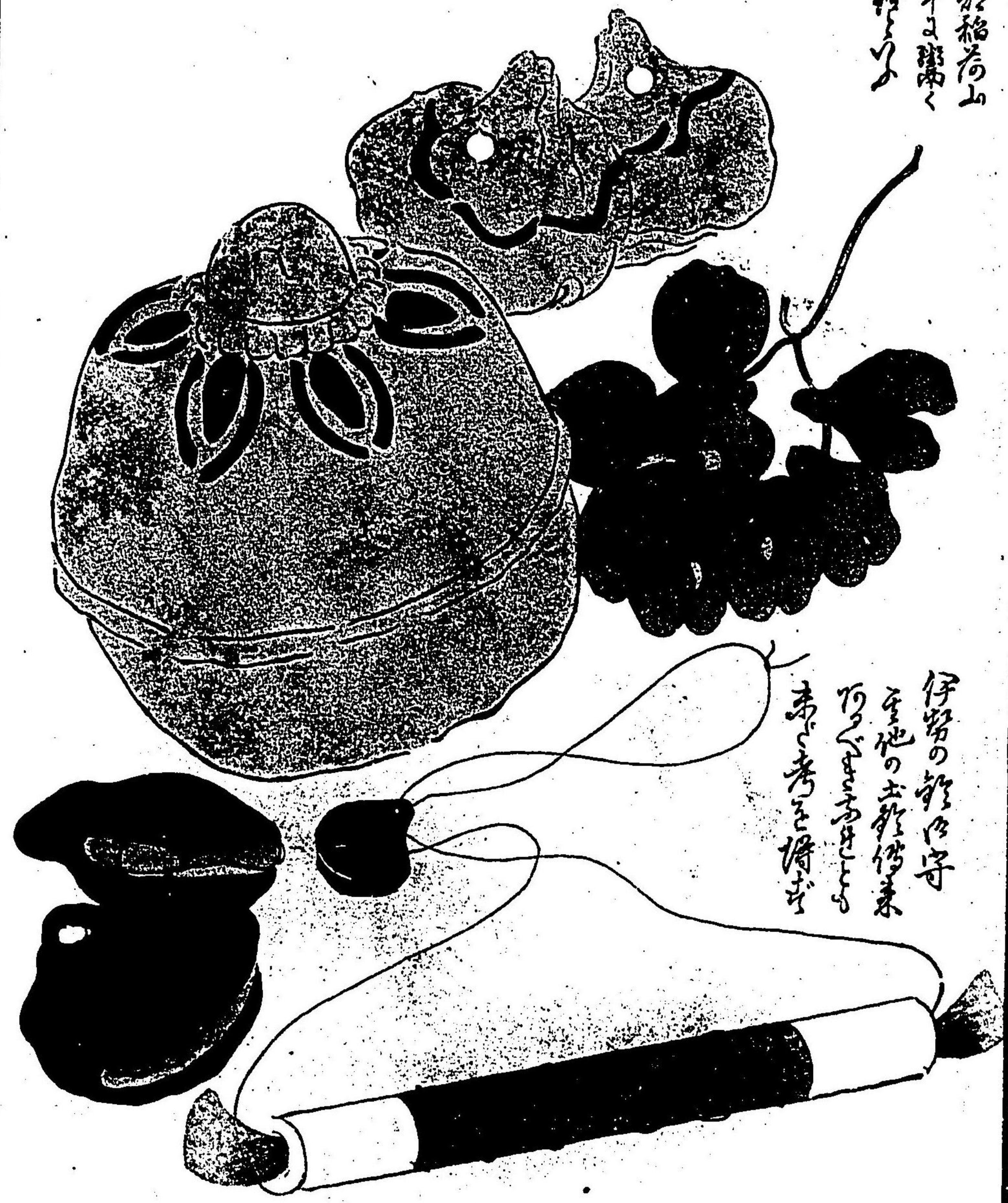


出雲大社へ  
至るに  
之をゆるす  
木末の世に  
以

竹後園上  
郡全屋宮  
水難除き  
麻を造る  
は守り  
万々



系於稻荷山  
初年又隣々  
並給るべし



伊勢の稲荷守  
各地の土物傳來  
ありてはあはれ  
赤く考を傳はせ

東京雜司谷鬼子母神の  
堂前より懸南ぐまきりの  
穂を作らば鬼より  
はよ遊する者一客家の  
孝女親を養はんが為  
初めて地りゆせしに  
を派大よ  
流行一

江戸王子お産の子提ひ  
今ハ絶へてし事



雜司谷系宿の宿  
歌心をおめめ  
なきれとせし事

明治十三年春より友竹内久遠く日向島に向り  
 吾より竹馬會とあるを以てこの會は友竹の集むる者たるに  
 かき打つていたる席の國にいらしむるは皆より遊  
 乃品をあたひたる人なるに由るるに座席よりあつて  
 此をみる見美術とはかゝるものなるを以て深く  
 おのひをむす今を以て美術と稱して座席に繪畫彫刻  
 物するは勿論であるに然るに皆これ高貴なるものなり  
 如きもの愛するは家へあつてあつて生活に遊ばざるは  
 おつたら天然に古雅をそだてて造作あり木あり  
 刻ありあり國々の風土情体を見るに多しと感ぜらる  
 可なり諸國は手あけび品をふるむるにやあつて  
 自ら京坂又各地方他の國へ遊歴せしむるに  
 或も志しむる友の旅りやきりてあつてははなむらゝ

集りよき女思ひおろしむるはわ十あつてこのを  
 よるに數百點を題を類を百餘種よ及びしもの  
 朝夕此の如く例に置きておしめし美術はこれ  
 なるとおぼはれしは春たあ本むらむるに來りて  
 未だ愛するものはおろしむるに今かく遠きちし  
 知るに友の美術をあづる今日ふあつてをむす  
 といふにわよりと様よと一の冊子とあるに  
 書を帯ふるは友の集りよかせしむるに  
 といふにわよりと様よと一の冊子とあるに  
 手九月よりわ日本業は餘暇なり

清水晴風一画

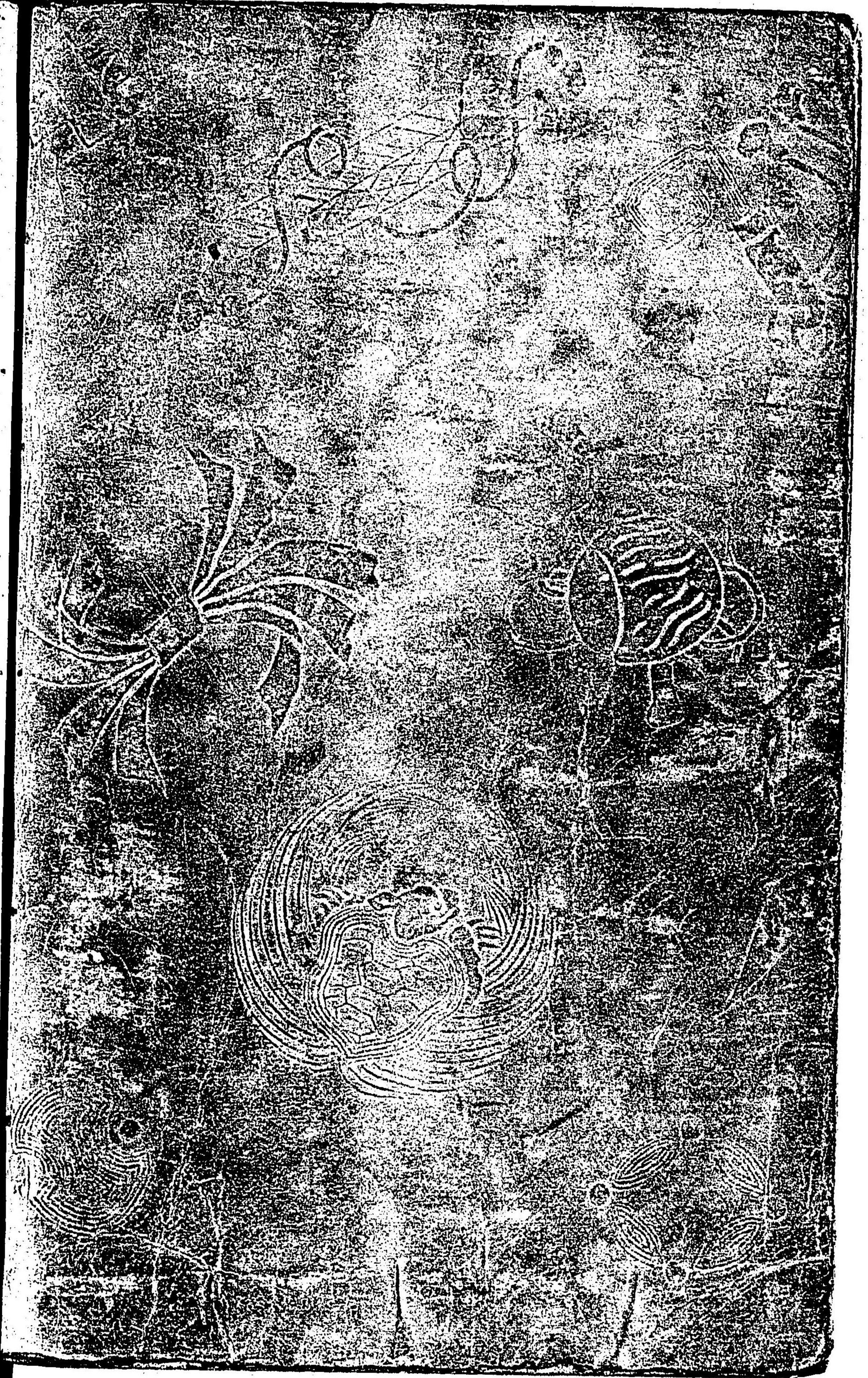
16  
143

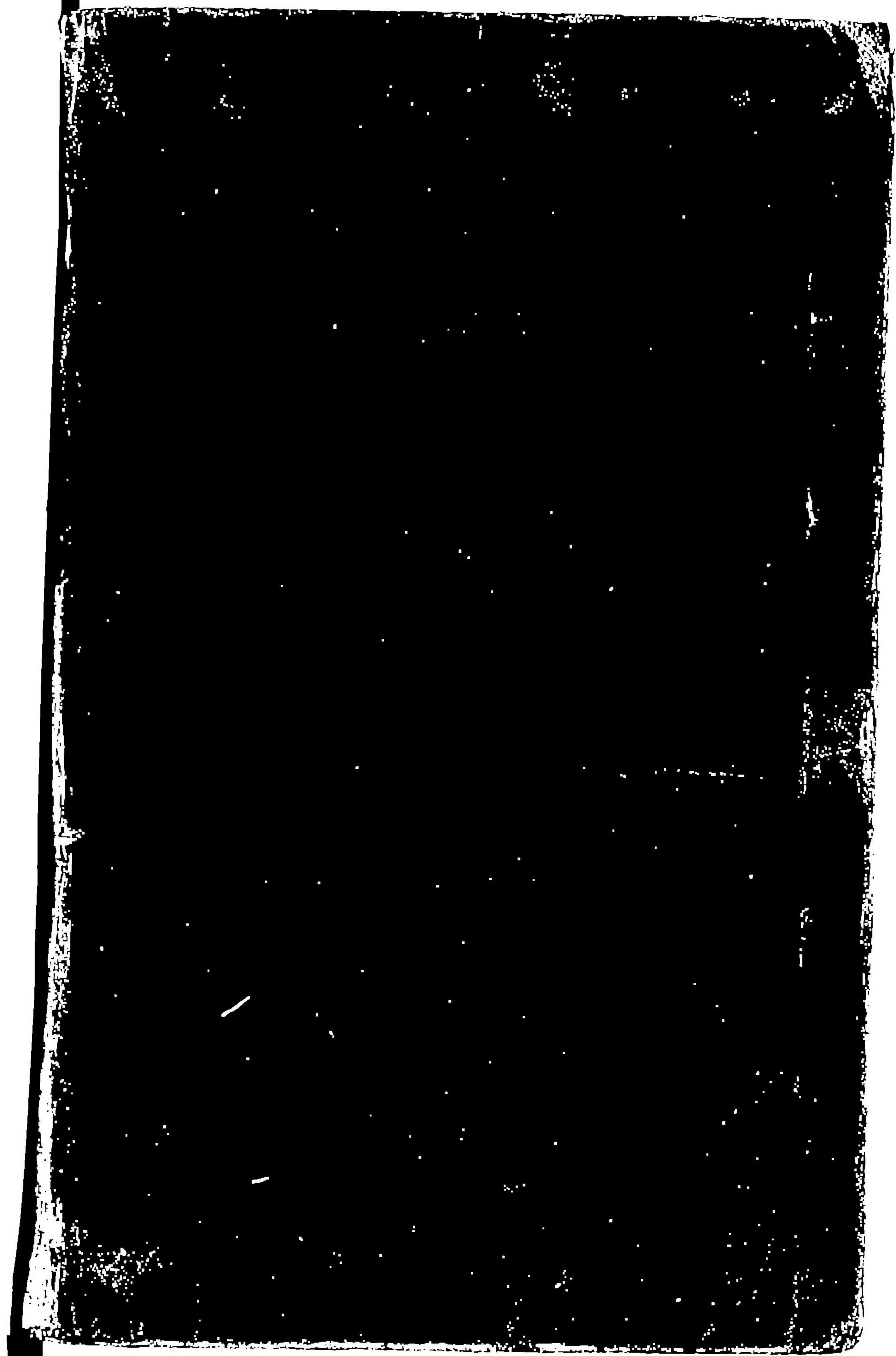
明治廿四年  
十月六日  
印刷出版

編者東京府平民清水仁兵衛  
神田區旅籠町一丁目七番地  
○印刷出版者全木郁徳太郎  
全區公所○發賣者日本橋區  
通孝丁目大倉孫兵衛外書肆

定價金六拾五錢

16  
143





16  
143

072155-001-0

16-143

うないのとも

清水 晴風/編

M24-T13

CEF-0003

